



泉佐野市【大阪府】 歴史文化基本構想

■策定年度：平成31年3月 ■人口：100,596人 ■市域面積：57km²
■担当課：泉佐野市教育委員会文化財保護課（平成31年3月現在）



泉佐野市の歴史文化は中世荘園「日根荘」をはじめ、数多くの歴史遺産資源を育みました。市域を取り囲む海・川・野・山の豊かな自然景観を基盤として、これらを泉佐野市特有の「いずみさの文化」として、その誇りを地域の人々とともに発信していきます。そしてこの先10年、20年後も、これらの歴史文化資源を周辺環境と一体的な活用を図り、継承していくくみを構築しながら、地域住民の郷土への愛着と歴史文化の価値の維持を目指します。

5 歴史文化を表す つのキーワード

海が育む職能・伝統、川が築く堰・道・王子・城、
野に開く荘園の実り、山のくらしと信仰、
海・川・野・山が育んだいずみさの文化の誇りを未来につなぐ

課題

- ・新たな登録・認定制度の検討
- ・人口減少や少子高齢化による文化財管理体制の弱体化
- ・地域住民と行政の協働

保存活用方針

- ・指定文化財等の経過観察
- ・未指定文化財等の調査の推進
- ・学習、体験の機会の充実
- ・担い手の確保・育成・活躍支援

保存活用のための取り組み

歴史・文化公開施設の機能の充実

「市立歴史館いずみさの」では「日根荘」に関する展示を常設展とし、荘園のテーマ館として運営している。本館を拠点としながら、他の公開施設や文化財と協働で積極的な普及啓発に取り組むことを検討する。



学習・体験の機会の充実

本市の歴史文化の価値を市民や多くの人々が理解、共有し、更により深く探るため、講演会や学習会、ガイドツアーの実施を進める。また、学校教育とも連携しながら、子ども達が本市の歴史文化を学ぶ機会を充実することで、将来の担い手育成へとつなげる。



文化観光への活用

市内全域に点在する歴史文化資源をストーリーの中でつなぎ、周遊・体験がしたくなるプログラムの作成を進めるとともに、それに必要となるルート整備や観光まちづくり等に取り組む。さらに、関西国際空港や泉佐野駅を中心とした歴史文化の発信、多言語化など、インバウンドの受け入れ環境の整備を進める。

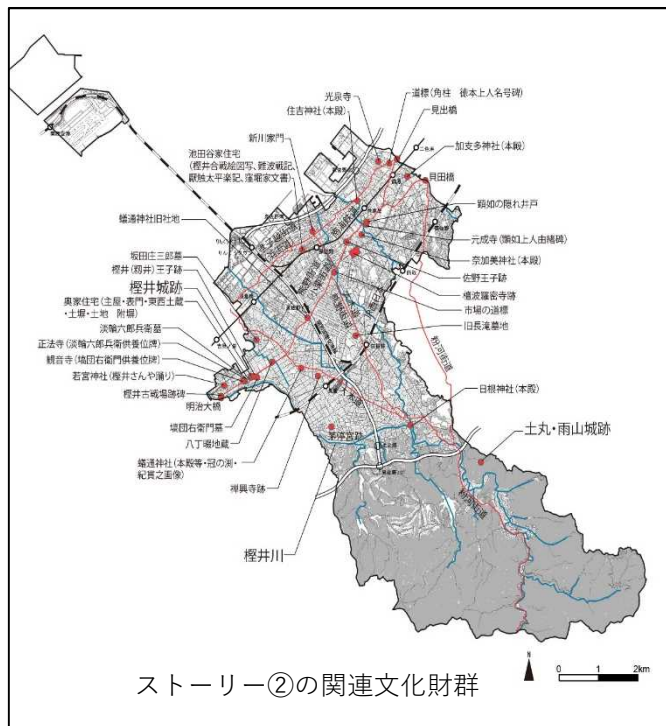


地域住民と行政による協働の仕組みづくりの構築

行政だけでなく地域住民も巻き込んだ取り組みが重要であることから、多様な局面における協働の仕組みづくりを構築する。市域全体で少子高齢化が進んでおり、歴史文化資源の保存・活用に取り組む担い手の減少や高齢化も危惧される中、興味や関心を抱き、郷土への愛着心を持つ地域住民を確保・育成する。



関連文化財群



海、川、野、山の4つの特性を拠点として生業や暮らし、信仰や祭礼などが育まれてきた。これらは歴史的・地理的に密接かつ複雑に関連し合っている。そしてこのつながりや影響を生み出し、さらなる発展を支える背景として、市内を縦横に走る街道がある。海～野～山を結ぶ粉河街道や熊野街道が主要な役割を果たし、「いづみさの文化」をつくりあげてきた。

ストーリー

- ①「茅葺海」と「さの町場」
- ②「櫻井川」と「土丸城・櫻井城」
- ③「九条家」と「日根荘園」
- ④「犬鳴山」と「修験」

策定後の成果（見込まれる効果）

① 地域活性化の促進

市内に所在する歴史文化資源を、相互に関連するまとまりとして整理し、本市の文化・伝統を語るストーリーを策定する。このストーリーに登場する文化財群を総合的に整備・活用することで地域の活性化が見込まれる。



② 地域活動等への支援

今後、歴史文化資源の保護を担う地域が行う活動について、専門的な見地から保護措置についてのアドバイスや詳細な情報提供などの活動支援事業が図られつつある。これらが充実していくことで地域全体の継続可能な歴史文化資源の保護と活用が進められる。



③ 今の暮らしを見直す

今の暮らしや文化がどのような成り立ちや出来事を経てきたのか、現在においてどのような形で継承されているのかを記載することで、そこから泉佐野の歴史文化を身近なものとして興味を持つことを促す。

